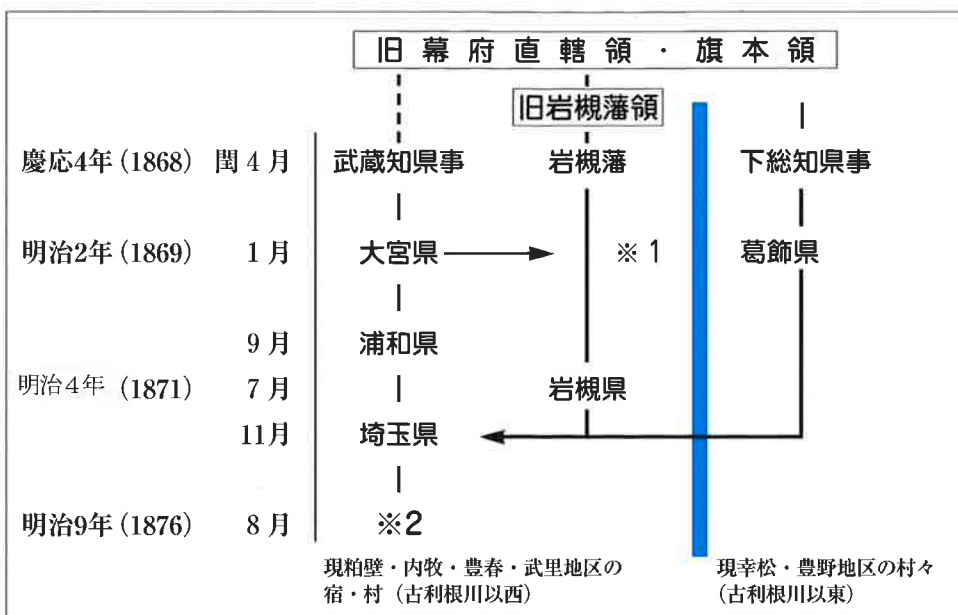


# かすかべの宝ものⅢ 展示案内

～明治は遠くなりにはけり～

平成13年3月21日（水）～7月8日（日）

## 1 埼玉県と新町村の誕生と変遷



※ 1 上蛭田・花積・中曽根・新方袋の4村が大宮県から岩槻藩へ管轄変更。  
 ※ 2 熊谷県の一部が合併し、ほぼ今の埼玉県確定。  
 (『春日部市史』通史編Ⅱより作成、以下表2～4同じ)

明治維新後、市域の宿村は、表1のような管轄となっていました。初期の岩槻藩領の村々は、増戸、増富、上・下大増新田、東・西谷原新田、薄谷村、増田新田の一部の各村でした。なお明治7年(1874)12月、東・西谷原新田は谷原新田に、内牧村と吉郎兵衛新田は内牧村にそれぞれ統合されました。また、明治12年(1879)中曽根村は、南埼玉郡内に同名の村があるため南中曽根村と改称されました。明治22年(1889)市制・町村制施行による合併で、現在の粕壁・内牧・豊春・武里・幸松・豊野の各地区のもととなる、1町5村が誕生しました。

表1 現春日部市域の管轄県・藩一覧（明治元年～明治9年）

### 1 明治元年 上蛭田村岩槻藩領地替に付定検見願書（當間通雄氏寄贈）

武蔵知県事から岩槻藩への支配・管轄替えにともなう定検見（年貢を数年間一定額とする定免ではなく、毎年作柄調査によって年貢額を定める方法）願。この文中に「殊ニ当今 御一新之御時世、万民 御撫育之御趣意被 仰出、末々ニおゐても誠ニ以難有仕合ニ奉存、農業出精仕…」とあり、明治維新の風が文言からもうかがえる。

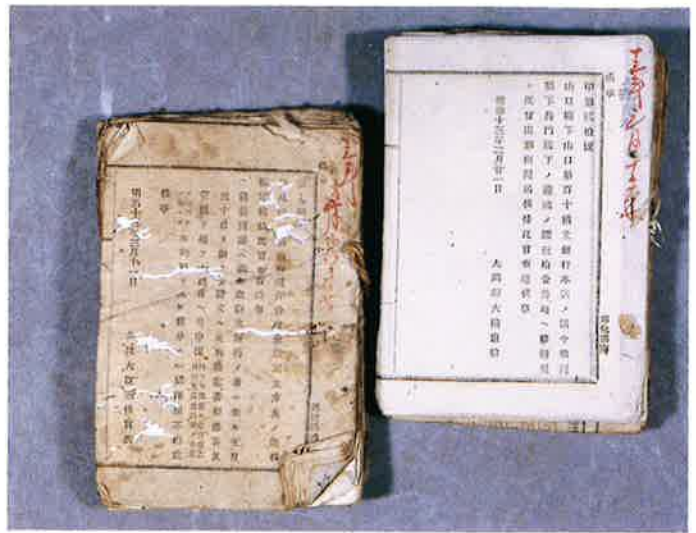


2 明治3年 浦和県御年貢永受取覚（右）と明治5年 埼玉県年貢金皆納証（左）（青木忠雄氏寄託）  
 浦和県→埼玉県への変化とともに、タイトルも覚→証と近代的な表現へと変化してきている。



3 明治11年 地租改正二付田畑巻筆限取調簿（當間通雄氏寄贈）

地租改正は明治5年土地私有制・地券発行に基づく税制改革で、これにより前代の年貢村請の税体系は終焉した。県下では明治8年から12年にかけて土地の測量・地租決定事業が行われた。



4 明治12~13年 布告・布達綴（當間通雄氏寄贈）

明治政府の命令書。活版で印刷され、町や村まで下達された。布告者に維新政府の中心人物、三条実美や大隈重信の名前が見える。

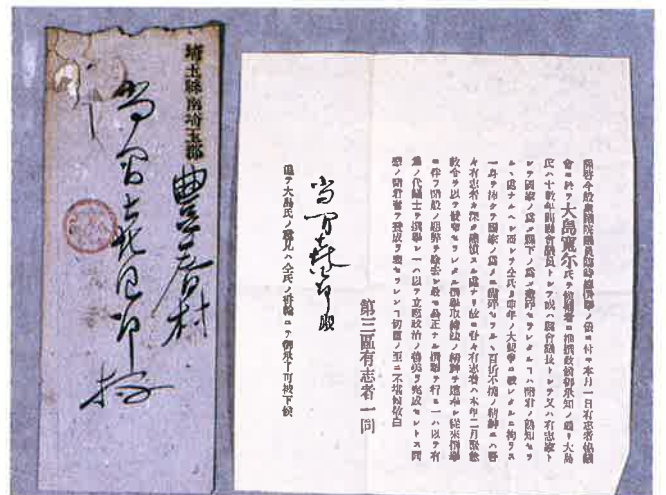


5 明治22年 内牧村日計簿（島田善雄氏寄託）

この内牧村は明治22年に誕生した合併村。帳簿の後半には、同年の大日本帝国憲法発布勅語が写されている。

表2 明治22年新町村の人口と戸数

新町村区域	人口	戸数
粕壁町	5,081	975
内牧村	1,838	301
豊春村	2,615	407
武里村	3,128	518
幸松村	3,142	523
豊野村	2,418	384
合計	18,222	3,108

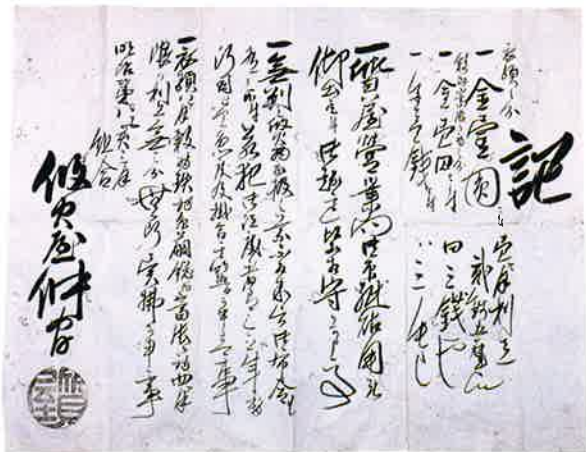


6 明治31年 衆議院議員候補者推薦状（當間通雄氏寄贈）

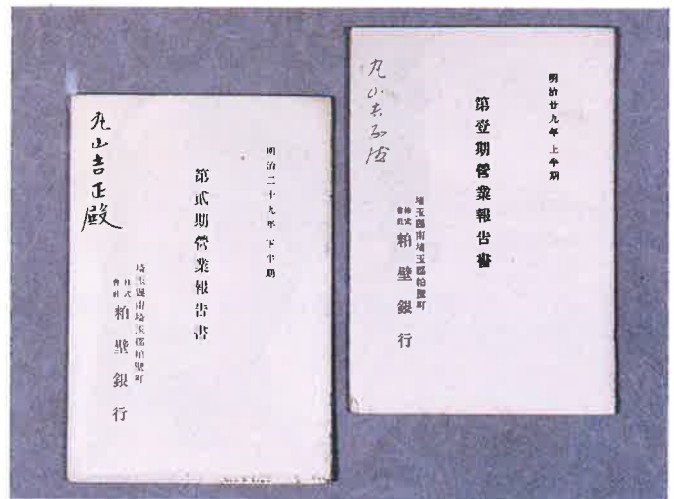
明治23年第1回帝国議会が開かれ、貴族院と衆議院が設けられた。制限選挙により衆議院議員は選ばれた。

## 2 粕壁町の商い

江戸時代宿場町しゆくほまちであった粕壁は、明治以降も穀物商や織物商などが集まる商業や交通・流通の要地として発展しました。また、伝統の桐ダンス・桐工芸のほか、麦あきただわら真田・麦わら帽子製造も始まりました。一方で鉄道の開業などにより、江戸後期には45軒あった旅館は、明治後期にはわずか3軒と大幅に減少しています。交通関係では、明治前期には粕壁宿に90両、備後村びんごに9両のほか小渕、八丁目、樋籠ひろうの各村に計128両じんりきしゃの人力車（うち2人乗り24両）があり、また、粕壁宿には東京-宇都宮間馬車の駅つぎたてば（馬の継立場）がありました。明治26年（1893）に千住馬車鉄道が開通（ただし明治30年に粕壁-大沢間は廃業）、明治32年（1899）には東武鉄道北千住-久喜間が開通し、1日7往復旅客や貨物を選びました。

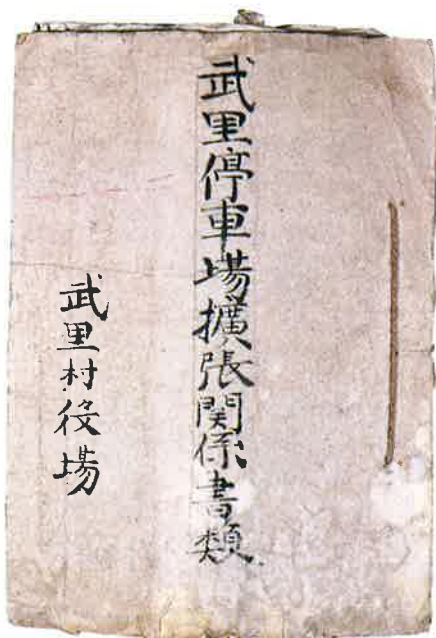


7 明治8年 粕壁町質屋組合仲間定（成川雅夫氏寄託）  
粕壁で質屋を営む商人たちの取り決め。衣類は金一円につき月2銭5厘、穀物・嵩張物は1日3銭の金利となっている。



8 明治29年 粕壁銀行営業報告書 上半期・下半期（粕壁銀行資料）

明治28年12月、粕壁の商人が中心となって設立した粕壁銀行は、現在の埼玉県信用金庫付近にあった。資本金10万円で、翌年1月3日から営業を開始。粕壁銀行は経営難から、大正9年武州銀行（後の埼玉銀行・現あさひ銀行）と合併した。



9 明治44年 武里停車場擴張関係書類  
綴（武里村役場文書）

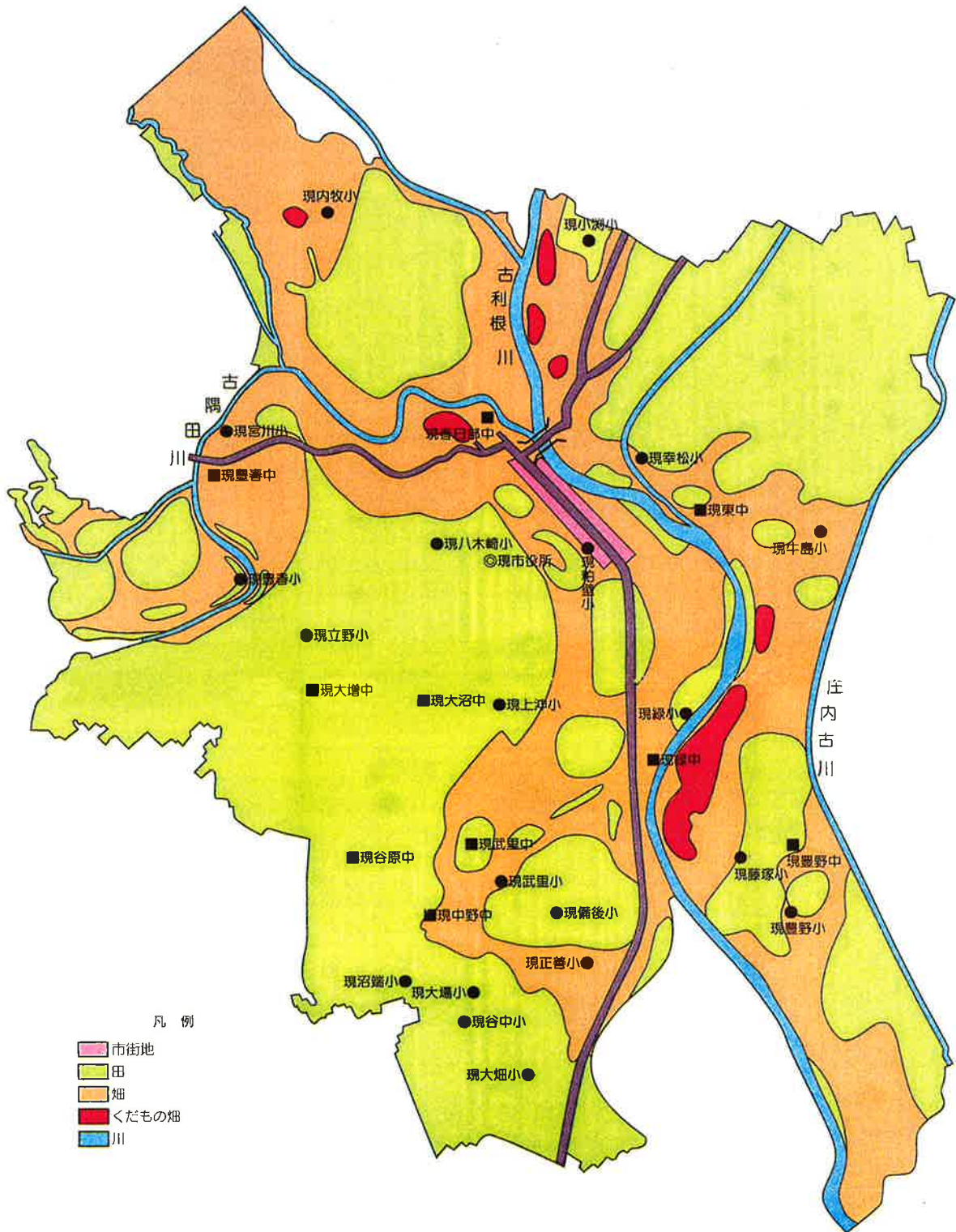
表3 春日部市内駅の開業年月日

○東武鉄道伊勢崎線	
粕壁駅	明治32年（1899）8月27日 ※昭和24年9月1日春日部駅に改称
武里駅	明治34年（1901）12月1日
一ノ割駅	大正15年（昭和元年・1926）10月1日
北春日部駅	昭和41年（1966）9月1日
○総武鉄道・昭和19年東武鉄道と合併、現東武鉄道野田線	
八木崎駅	昭和4年（1929）11月17日
豊春駅	昭和4年（1929）11月17日
藤の牛島駅	昭和6年（1931）3月1日
土井停留所	昭和8年（1933）5月10日 ～昭和22年（1947）6月3日

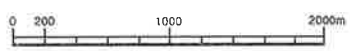
### 3 町と村の暮らし

近代化を推し進めた明治政府の国策により、町や村の暮らしも次第に変化していきました。例えば、西欧諸国と日付を合わせる必要から、明治5年(1872)12月3日を明治6年1月1日とし、それまでの太陰曆(旧曆)から太陽曆へ改めました。しかし、民間では農業や祭りなどは旧曆にもとづいて行われていたため、移行には時間がかかったようです。また、頭髮・服装などの洋風化が始まり、県庁で明治5年県庁などで礼服の洋服化や座敷の廃止・靴履き、机やいすの使用が決められ、公官庁の洋風化をきっかけに文明開化が始まります。

図 明治前期市域の土地利用略図



- 凡 例
- 市街地
  - 田
  - 畑
  - くだもの畑
  - 川



市役所や小・中学校は、位置のめやすとするために入れたものです。明治時代の役場や学校の場所とは異なります。



10 明治末～大正期 オルガン  
(山口喜重氏寄託)



11 明治期 トンピ (竹村清氏寄贈)  
外套。鳶合羽ともいった。

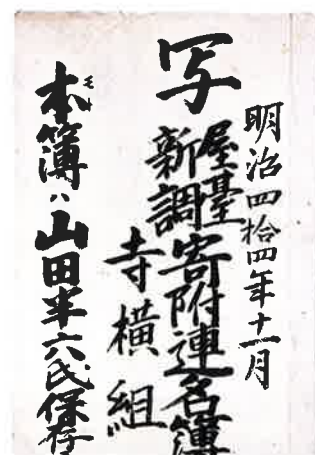


12 明治38年 万石篩  
(田口一男氏寄贈)

千石通、万石通、千石卸、万石卸などともいう。米の選別農具。「明治参拾八年拾月新調 埼玉県南埼玉郡内牧村大字内牧 田口惣二郎」と墨書がある。



13 明治32年 八幡祭礼記念  
(須賀芳郎氏提供)  
10月19日から3日間、八幡祭礼が行われた。  
田村本店奥庭にて、仲町有志連・子供を撮影。



14 明治44年 旭町屋台新調  
寄附連名簿 (旭町寄託  
俊弘堂文書)

夏祭りの屋台を新調したときのもの。



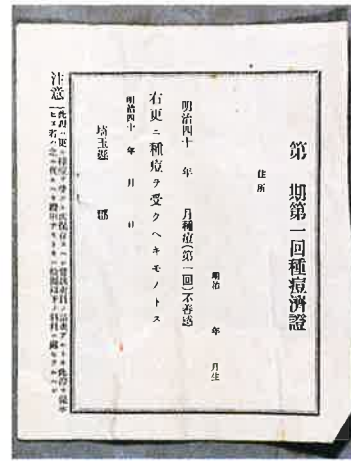
15 明治19年 町内将棋番付奉納額  
(山中観音堂寄託)

粕壁や周辺の将棋仲間たちが、山中観音堂へ奉納したものの。



16 明治27年 種痘施療の控（旭町寄託 俊弘堂文書）

天然痘（痘瘡）は古来から恐ろしい伝染病であった。すでに幕末期には、植痘瘡（種痘）が西洋から伝来して行われた。この他、明治期の伝染病としてはコレラ（虎列刺）があり、明治12年をはじめ数回流行した。



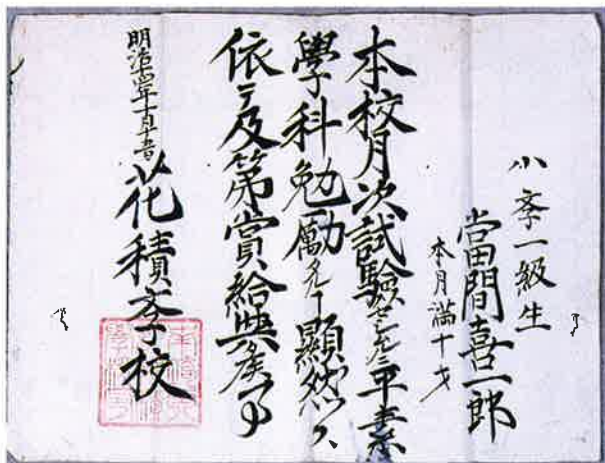
17 明治40年 第一回種痘済証（武里村役場文書）

## 4 学校の始まり

明治5年（1872）学制が定められ、初めて日本の学校体系が整いました。6才から就学し、当初は小学校上等・下等ともに4年の計8年間が就学年数でした。その後明治12年の教育令、同13年の改正教育令により、小学校初等科3年・中等科3年の計6年間となりました。高等教育では、明治32年（1899）4月粕壁町に埼玉県第四中学校が開校し、同34年県立粕壁中学校（現春日部高校）と改称されました。また、明治44年（1911）には、粕壁小学校内に町立の実科高等女学校（現春日部女子高校）が開校しました。

表4 小学校の設立状況（明治9年当時）

学校名	設立場所	年代	生徒 (男)	生徒 (女)	教員 (男)	教員 (女)	校舎	教室 数
粕壁	粕壁宿	明治5	125	34	5	1	最勝院	5
日新	粕壁宿 (粕壁学校分校)	明治6	95	20	3		真藏院	3
内牧	内牧	明治6	65	5	2		寺院(矢島蘆丸別宅で発足)	3
花積	花積	明治6	52	7	2		東西寺	2
谷原	谷原新田	明治6	58	4	3		民家	3
備後	備後	明治6	85	13	3		勝林寺	4
大畑	大畑	明治6	82	5	4		西光寺	3
小淵	小淵	明治6	59	10	3		観音院境内	2
文友	不動院野	明治7	29	8	2		大乘寺	5
牛島	牛島	明治6	37	8	2		寺院	5
周知	銚子口	明治6	72	12	4		西藏寺	6
合計			759	126	33	1		41

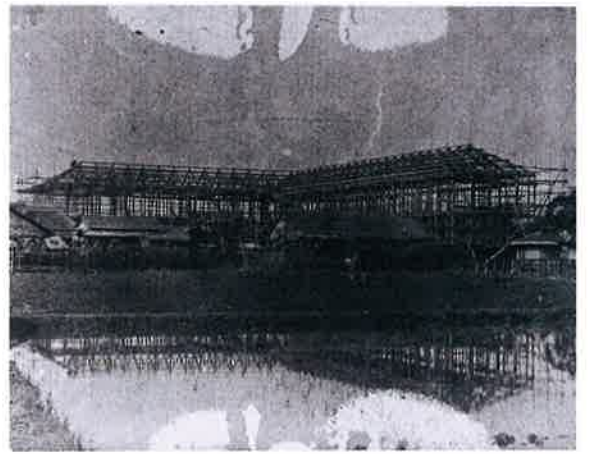


18 明治14年 花積学校 試験修了証書（當間通雄氏寄贈）



19 明治24年 作文稽古帳（當間通雄氏寄贈）  
当時の小学生が使ったノート。





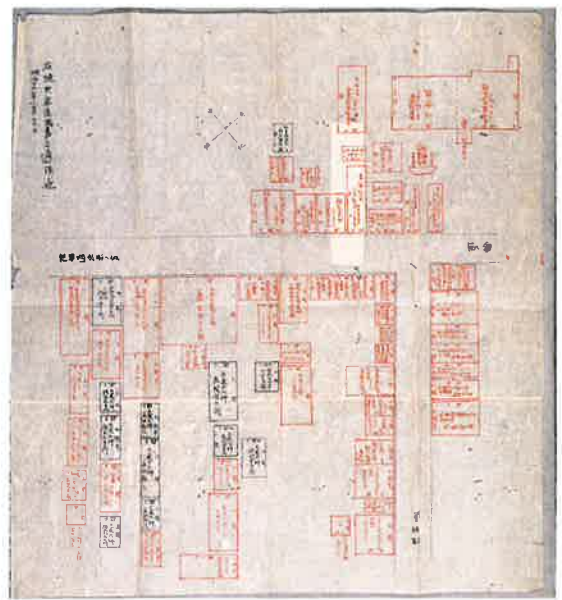
20 明治23年 教育勅語

明治天皇の「教育に関する勅語」は、第2次世界大戦終了まで、近代教育や国民道徳の支柱であり、正式には昭和23年失効した。資料は額装されており、小学校で礼拝されたものと思われる。

21 明治36年 粕壁小学校上棟式 (多田光子氏提供)  
現埼玉県福祉センター付近に建てられた木造校舎の上棟式の写真。粕壁小学校校舎が現在地に移るのは昭和に入ってから。

## 5 火事と水害

江戸時代から、粕壁宿ではたびたび大火があり、消防組織が宿内の各町ごとに組織されていたようです。明治以降も、手押しポンプやホースなど消火具は各町単位で備えられていました。また、古利根川や庄内古川が流れる市域は水害も多く、明治23年(1890)8月には224戸が浸水、明治43年(1910)8月には新町橋が流失するなど、利根川中流の堤防が決壊したことから大きな被害をもたらしたこともあり

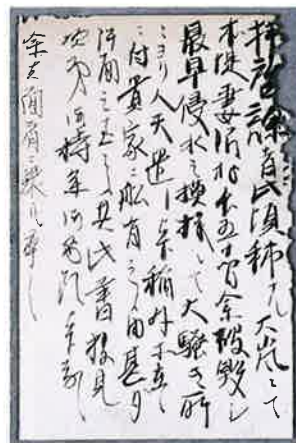


23 明治26年 粕壁町字本新宿 半鐘 (元新宿地区会寄贈)

火の見やぐらにつるし、火災のとき打ち鳴らした。

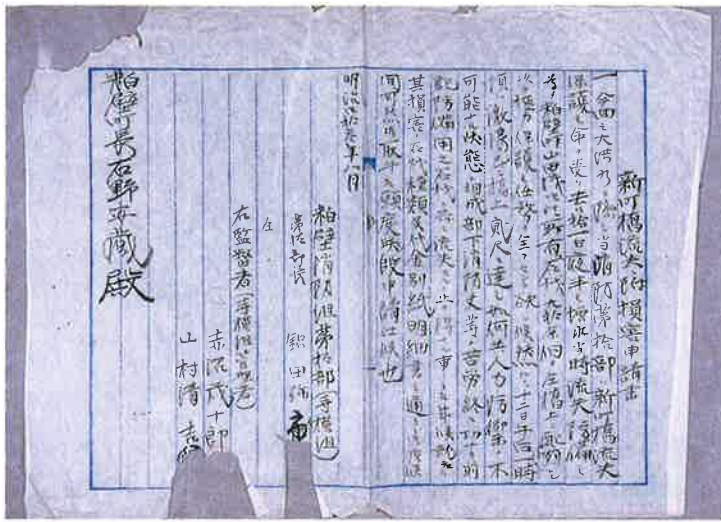
24 明治期  
まとい  
(内出町内会寄託)  
町の消防団の標。

22 明治19年 焼失家屋配置明細図面 (妙楽院寄贈)  
現新町橋西交差点付近の図。火災にあった家は赤色で記されている。明治21年岩槻新道ができる前の様子が見える。妙楽院はこの後、現在地へと移転した。



25 明治17年 テレキスイ  
(内出町内会寄託)  
消防用のポンプ。

26 明治期 大嵐にて浸水のため貸し船依頼状 (當間通雄氏寄贈)  
豊春村蛭田の当間喜一郎から幸松村五丁目酒巻丑六宛の葉書。利根川堤防が決壊したため、浸水を恐れ船の借用を願ったもの。本文は次の通り。「此頃稀ナル大嵐にて、本堤妻沼村長五十間余破毀シ、最早浸水之模様にて大騒ぎ所ニヨリ人夫遣し被下、稻刈等在之二付貴家ニ船有之候由甚ダ汗面ノ至ニ候共、此書披見次第御持参御出頭被下度候」



27 明治43年 新町橋流失二附損害申請書(旭町寄託 俊弘堂文書)  
8月1日から11日にかけて、利根川・荒川が氾濫し大洪水となった。



28 明治44年 新町橋落成(須賀芳郎氏提供)

## 6 二つの戦争

武士身分が消滅した近代では、軍隊は職業軍人と民間からの徴兵によって組織されていました。そして、明治末には、日清戦争(明治27~28年)と日露戦争(明治37~38年)の二つの戦争を経験します。粕壁町からの従軍者では、日清戦争1名、日露戦争5名の戦死者・病死者がいました。



32 明治38年 近衛騎兵軍服  
(朝倉保氏寄贈)



31 明治37年 日露開戦二付寄付  
金徴集簿  
(旭町寄託 俊弘堂文書)



29 明治38年 日露戦争従軍記章(武里村役場文書)



30 明治38年 日露戦争救護記念章(武里村役場文書)

寄贈者・寄託者・写真提供者(図録掲載者のみ・敬称略)  
ありがとうございました。

青木忠雄 朝倉 保 島田善雄 須賀芳郎  
田口一男 竹村 清 多田光子 當間通雄  
成川雅夫 山口喜重 旭町内会 内出町内会  
元新宿地区会 妙楽院 山中観音堂